

第4部

地域の特性と 発展の方向性

地域の特性と発展の方向性の概要

上田中央地域、上田西部地域、上田城南地域
神科・豊殿地域、塩田地域、川西地域、
丸子地域、真田地域、武石地域

地域の特性と発展の方向性の概要

策定の趣旨

「地域の特性と発展の方向性」は、自然や文化などそれぞれの地域の特性を生かしながら、将来の発展に向けて地域が取り組むまちづくりの方向性を示すものです。

市民、事業者、行政等が地域の特性を理解し、地域が目指すまちづくりの姿の共有が図れるよう総合計画の中で位置づけ、地域内分権推進の取組において、各地域のまちづくり計画の策定を進めていきます。

地域の特性

自然・文化・生活環境など地域の特性を示します。

発展の方向性

地域が目指すまちづくりと取組の方向性を示します。

ここでは、課題解決に向けた地域住民による自主的な活動のほか、道路網整備や地域経済活性化など、市民・事業者・行政といったそれぞれの主体による検討・調整を踏まえ実施する事業も含めて掲載し、取組の方向性をより分かりやすく示しています。

地域区分と策定の手順

【1】 地域区分

地域協議会の設置区域に基づき、9つの地域区分ごとに策定します。

地域の名称	地域協議会	区 域
上 田 中 央 地 域	上田中央地域協議会	東部、南部、中央、北部、神川地区
上 田 西 部 地 域	上田西部地域協議会	西部、塩尻地区
上 田 城 南 地 域	上田城南地域協議会	城下、川辺・泉田地区
神 科・豊 殿 地 域	神科・豊殿地域協議会	神科、豊殿地区
塩 田 地 域	塩田地域協議会	東塩田、中塩田、西塩田、別所温泉地区
川 西 地 域	川西地域協議会	川西地区
丸 子 地 域	丸子地域協議会	丸子地区
真 田 地 域	真田地域協議会	真田地区
武 石 地 域	武石地域協議会	武石地区

【2】 策定の手順 —地域協議会への諮問と答申—

策定にあたっては、市長が「地域の特性と発展の方向性」について各地域協議会へ諮問し、地域協議会での検討を経て答申された内容を尊重し総合計画に掲載しています。

期 間

第二次上田市総合計画のまちづくりビジョンの10年間(平成 28年度～ 37年度)とし、まちづくり計画の目標年度(平成32年度)に合わせて見直しを検討します。

上田中央地域

地域の特徴

1	上田駅を中心に市街地が形成された本市の玄関口
2	上田城跡や信濃国分寺など上田市を代表する歴史的遺産を擁した市の中心地域

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	玄関口としての都市機能の充実と市街地の活性化を総合的に推進します。
2	歴史的資源や豊かな自然環境を保全・活用した賑わいと交流の拠点を目指します。
3	市民や来訪者が行き交うまちづくりを目指します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 新市の核となる都市機能の充実と中心市街地の活性化	<p>中心商店街の賑わい創出と、交流文化施設周辺と融合した新しい中央地域の将来像づくり</p> <p>居住満足度を高めて、上田駅周辺を拠点とした地域内外の交流を促進する整備の在り方を研究して、市街地の活性化と商業・観光の振興を一体的かつ総合的に推進</p> <p>都市環状道路や上田駅を基点とする交通網などの基盤整備を行うほか、市街地内の回遊性向上を図り、散策したくなるまちづくりを推進</p> <p>公共施設の充実を図るとともに「街なか」居住の推進と、住民や事業者の連携・交流による地域活力の向上</p>
② 歴史遺産との融合・調和を図るまちづくり	<p>数多く残る歴史遺産の価値を再認識して、観光振興に生かすとともに、こうした遺産との融合・調和を図り誇りをもてるまちづくり</p> <p>歴史的遺産ともいえるべき、地名等についての認識を深めて、地元住民の意見を聞きながら、歴史的な地名等を後世に残すまちづくり</p>
③ すべての人々にとって安全・安心なまちづくり	<p>地域住民を中心に交番や防犯関係団体、防災関係団体、ボランティア、PTAなどの連携と絆を深めて、住民の安全意識の高揚を図り、地域ぐるみの安全体制づくりを推進</p>
④ 自然環境の保全と共生によるまちづくり	<p>千曲川をはじめとする神川、矢出沢川などの水辺空間や特色ある景観である染屋台の斜面樹林などの河岸段丘を保全して、豊かな自然を活用し市民に憩いと潤いを与える地域づくり</p> <p>花と緑があふれる歩いて楽しい空間の創造</p> <p>子どもたちに自然を大切にすることを教えることができる環境をつくる</p>
⑤ 保健・福祉・医療活動の拠点整備と人的資源の活用	<p>保健福祉施策や子育て支援施策の推進、医療体制や介護体制の整備など、あらゆる世代の健康増進や地域福祉施策等を推進して、上田市全体の保健・福祉・医療のネットワークの充実</p> <p>子どもがのびのびと成長できて、高齢者・障がい者にやさしいまちづくりを進めるとともに、住民との協働による福祉活動の推進</p>
⑥ 地域コミュニティを中心とした協働による地域を誇れるまちづくり	<p>複雑多様化する地域課題を適切に解決していくために、住民・各種団体・行政の協働による新たなまちづくり</p> <p>各種団体や個人などが、各種地域課題への解決に向けた対応や、生涯学習などへ積極的に参加できるように支援するとともに共助、協働による地域住民が誇れるまちづくりの推進</p>
⑦ 産学官連携支援施設や伝統工芸など地域の特性を生かした産業の振興	<p>産学官連携支援施設との連携を通じた大学や市民などとの協力体制の強化、新技術・新産業創出に向けた取組の展開、「地産地消」を推進し近郊農業の生産意欲の高揚</p> <p>農民美術、上田紬や蚕都上田として栄えた歴史的な文化に触れながら、地域に伝わる伝統工芸の振興、後継者の育成と技術の継承</p>

上田西部地域

地域の特徴

1	太郎山系から千曲川まで広がる地域で、中央部を国道18号としなの鉄道及び新幹線が通過
2	旧北国街道沿いは歴史的建造物が今も残る閑静な住宅地
3	優良農地の一部集積や大規模な工場が見られるが近年空地化や荒廃化が進行
4	卸団地等の商業・業務施設が数は減少傾向にあるが存在し、国道沿い等には商業施設が進出
5	上小地域の医療の中核を担う信州上田医療センターが所在する地域
6	地域全体の高齢化が進行している地域

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	歴史的、文化的資源を保全しながら、恵まれた環境を生かすとともに、商業機能などを活用して、賑わいを創出するまちづくりを目指します。
2	太郎山や千曲川、農地などと調和した落ち着いた生活環境のなかで、住民が健康で元気なまちづくりを目指します。
3	地域の利便性向上のために、安全な交通環境の整備を進め、子どもや高齢者等が安心して、快適に暮らせるまちづくりを目指します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① コミュニティ活動拠点の整備と住民主体のまちづくりの推進	<p>生涯学習をはじめ、世代間の交流、子育て支援の場としての機能の整備・充実や、地域防災拠点施設の併設についても検討し、西部公民館の建替えに向けた取組</p> <p>西部公民館を拠点として地域住民が主体となったまちづくりを進めるため、自治会、各種団体や地域協議会などの連携と行政との協働を推進し、さまざまな課題の解決やまちづくりのあり方を協議・検討</p> <p>公民館等を活用した自由なコミュニティ活動の場の確保と活動の増進</p>
② 歴史的遺産等の積極的な活用による地域の振興	<p>地域資源の調査を行い、必要なものの保全を図るとともに、観光資源につなげていくなどの利活用を推進</p> <p>地域の伝統文化や昔から伝わる行事の継承を推進</p>
③ 地域が誇れる自然環境の保全、整備と有効活用	<p>矢出沢川沿いの遊歩道、公園、北国街道、歴史の散歩道、山城などを生かしたトレッキングコースを設定し、新たな観光資源の創出や健康づくりへ活用</p> <p>山林、里山や水辺環境、公園・緑地など、自然とのふれあいの場を整備し、自然との共生と自然を生かした地域の活性化</p>
④ 地域防犯力を生かし、安全安心で快適なまちづくり	<p>地域・行政などとの連携により「地域防犯力」を高め、誰もが声をかけあい「温かいまなざしが深まる地域」として、安全・安心に暮らせるまちづくりを推進</p> <p>「あいさつの飛び交う地域づくり」を進めるとともに、住民参加による花づくりや緑化、幹線道路の渋滞解消や周辺道路の安全対策、また、きれいな水と空気など、より良好な生活環境を形成</p> <p>歩道と車道を区分し、通学路の安全や高齢者の外出を促進しやすい地域に向けての環境づくり</p> <p>地域の防災機能と災害対策の整備・強化</p>
⑤ 多様な地域の資源を活用し、将来を担う子どもたちを地域ぐるみで育てるまちづくり	<p>子どもが自然に親しめる広場・公園を整備し、自然に親しみ、郷土の歴史や文化に触れることにより、郷土に誇りを持つ子どもたちを育成</p> <p>学校と地域が連携し、地域ならではの行事への参加や伝承を通じて、地域ぐるみで子どもの郷土理解と育成を推進</p> <p>「地域子育て力」を高め、子どもたちの明るく元気な声がまち全体に響き渡り、子どもたちがたくましく生きるまちづくり</p>
⑥ 世代間交流が活発に行われ、コミュニティの確立を目指すまちづくり	<p>学習会・講演会やスポーツ・遊びなどを通じ、子どもからお年寄りまで世代を超えた交流を深め、住民自治の推進及び「地域連帯力」の向上とコミュニティの活性化</p> <p>少子高齢化・人口減少を見据えていくなかで、方向性と対策を検討し、まちづくりを推進</p>
⑦ 地域が一体となり高齢者や障がい者を支え、誰もが安心して暮らせるまちづくり	<p>自治会をはじめNPOやボランティア団体などを核として、住民と地域の医療機関等との協働により更なる福祉活動を展開</p> <p>高齢者や障がい者を地域全体で支え、誰もが安心して暮らせるまちづくり</p> <p>ボランティア活動を周知し、地域住民の潜在的な力を発揮してもらう仕組みづくり</p>
⑧ 地域の特色を活かした産業の振興	<p>地域に根ざした伝統工芸・地場産業の振興、商工業の発展及び高齢者・障がい者等買物弱者への支援を視野に入れた日常生活に必要な地元商店の振興</p> <p>農地の有効活用を進め、地産地消を推奨し、生産者と行政・各種団体が協力し合い、農業生産活動を地域ぐるみで促進</p>

■ 地域の特徴

1	国道143号、主要地方道上田丸子線などの幹線道路、更には別所線が通る交通利便性の高い地域
2	千曲川や半過岩鼻をはじめ上田原古戦場など、原風景が多く残る地域
3	幹線道路沿いには商業系施設が立地
4	生活利便性が高く住宅化が進み、人口は増加傾向
5	県営上田野球場や多目的グラウンドなど、スポーツ施設が集積している地域

■ 発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	城南地域が“住んでよし、訪れてよし”と感じられ、人の姿の見える魅力あるまちづくりを進めます。
2	千曲川をはじめ産川や浦野川、小牧山や上田原古戦場、半過岩鼻など奇景や原風景の残る豊かな自然や農地を大切に保全するとともに、秩序ある都市空間づくりを進めます。
3	良好な住環境を保全していくため、住宅と農地の混在抑制や景観形成に配慮し、多様な商業環境と調和した快適に暮らせるまちを目指します。
4	別所線など公共交通を活用しながら、地域の生活利便性の向上を図るとともに、渋滞緩和や歩行者・自転車などの安全性に配慮した、道路交通環境の整備を進めます。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① まちづくり活動拠点の活用と住民が主体となった地域づくりの推進	地域力の向上と地域住民が抱える課題に対する協働の取組を推進し、城南公民館を地域コミュニティ拠点とした地域の個性を生かした住民主体の地域づくりの確立 安心・安全な生活ができるように地域住民と協働した地域防災の推進
② 「上田 道と川の駅」を活用した地域振興の推進	千曲川・半過岩鼻などの自然環境、上田原古戦場・天白山などの歴史的資源及び芝生広場・ウォーキングコースなどの公園施設を生かした観光振興の推進 各種イベントを通じたPR活動と情報の発信 地域ブランドとなる農水産物を生かした商品の販路拡大
③ 人や自然にやさしい交通機能の整備	地域内外を円滑に移動できるような主要な生活道路の整備 幹線道路の歩道整備とだれもが安心して移動できる道路環境づくりの推進 公共交通の利用拡大に向け、路線バスの増便など、利便性の向上を推進 別所線の存続に向けて、運行の安全性確保の支援や地域内の主要駅でのパークアンドライドの研究・検討など、利用促進の啓発活動の実施
④ 高齢者や障がい者を支える地域包括ケアシステム構築と保健福祉環境の整備	健康寿命延伸を目指した健康づくり、生きがいづくり、社会参加づくりの基盤整備の推進 災害緊急時に要援護者に対し、地域住民が支援を進めるための住民支え合いマップの整備充実 地域包括ケアシステムの構築に向け、自助と共に地域の互助の精神を大切に地域づくりの推進
⑤ 地域で子どもを育てるまちづくり	家庭、地域、学校が連携し、地域全体で子どもを育てる環境づくりを実践 公民館を拠点とした子育てグループの育成と子ども達の社会力、学習力向上の支援 核家族化の進行に伴う、放課後や休校日の安全な児童の交流と学習場所の確保
⑥ 自然との共生を目指す里山の再生と農地の保全	里山や千曲川などの豊かな自然環境の保全及び整備 適切な土地利用のルールづくりを進めながら、優良農地の保全と遊休農地の有効活用を推進 地域の土壌に適した農作物の発掘とブランド化
⑦ 歴史的・地域的資源の保全と活用	地域の歴史や文化を伝承し、地域に誇りと愛着を持ち歴史的・地域的資源の保全を推進 歴史的資源を活用し、地域住民同士の交流を通していきいきと生活できる地域づくりの支援

■ 地域の特徴

1	上信越自動車道上田菅平インターを中心とした、上田市の玄関口
2	神川両岸の台地には、水稻、果樹栽培を中心とした農地が広がる
3	砥石米山城跡、矢沢城跡などの歴史資源、神川、太郎山、稲倉棚田などの自然資源を有する
4	神科地域では住宅や事業所が増加し都市的利用が拡大傾向、豊殿地域では貴重な交通機関の循環バスを地域自ら運営

■ 発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	神川の緑豊かな水辺空間をはじめ里山や田園空間など、かけがえのない自然環境を大切に保全し、まちづくりへの活用を目指します。
2	広域交通の結節点である上田菅平インターを上田市の玄関口として、史跡や田園、自然資源など地域資源の連携と活用により産業・観光振興や地域間交流の促進を進めます。
3	良好な田園居住環境の形成を図りながら、道路・公共交通など交通環境整備を進めて、子どもから高齢者まで安心して快適に暮らせる住みよいまちづくりを目指します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 地域の交通ネットワークの整備促進	国道144号、国道18号バイパスの整備 県道下原大屋停車場線、小諸上田線・矢沢真田線の改良促進 地域内道路について、狭隘・危険箇所、大雪や小中学生の通学路の歩道に留意して整備
② 地域の公共交通と、将来に向けた地域循環バス等新たな地域内交通の充実	人口の高齢化に対応した公共交通機関の充実 豊殿地域で自主運営している循環バスの充実と支援 住民共助による地域内交通の支援
③ 地域に根ざした医療・福祉の充実と地域内ボランティア活動の充実	地域内の福祉施設や医療施設との連携 地域住民を相互に支えるボランティア活動体制の構築 高度医療施設、緊急医療体制の拡充 要支援高齢者のためのマップや仕組みの構築
④ 神川河川流域の保全整備	豊かな自然環境をもたらす神川の保全 河川空間を保全し、地域の子どもたちが安心して遊んだり自然に親しめる遊歩道整備など親水空間の創出
⑤ 地域の子どもは地域で育てる活動の推進	将来を担う子どもを家庭・地域・学校が連携して地域全体で子供を育てる活動を推進 地域の育成会のあり方の検討 学校と地域住民の協働による学校づくりの推進
⑥ 地域の農業振興と地域内の財産・資源の活用	適切な農地の維持管理を行いながら、優良農地の保全と荒廃農地の防止・農業後継者の育成や新規就農者の条件整備 滞在型観光や都市住民に農業体験や収穫の喜びをもたらすクライン・ガルテンの推進 地域の財産である砥石米山城跡、矢沢城跡、稲倉棚田、未整備の伊勢崎城跡（富士見台、神科新屋地籍）、矢花古墳群等を再認識・再発見し、広く発信
⑦ 市民の森・わしば山荘の利用促進	市民の森公園の広域的利用を促進 市民の森公園の計画的整備・活性化

塩田地域

地域の特性

1	重要な観光資源である別所温泉と多くの史跡・文化財の集積
2	塩田平のため池群に代表される美しい田園風景
3	恵まれた自然環境と穀倉地帯である農業基盤
4	大学・研究施設と企業の集積
5	観光にも生かされ、地域住民の貴重な足でもある別所線電車

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	豊富な資源と貴重な財産を見つめ直し、生かします。
2	貴重な史跡・文化財を保全し、次世代へ継承します。
3	自然環境の保全とかがい施設の整備を促進します。
4	大学・研究施設等の立地を生かした連携事業を推進します。
5	歴史・自然・生活が調和した秩序ある土地利用を推進します。
6	生涯学習活動の活性化により、個性溢れる地域文化を育成します。
7	安心安全で充実した生活の実現に向けた環境整備を進めます。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 地域特性を生かした観光振興	史跡や文化財を結ぶ道路・遊歩道の整備等、観光ルートの整備促進
	塩田平のため池群を活用した誘客・交流事業の推進
	観光ボランティアの育成・体験交流の受け入れ等、官民一体となった観光誘客の体制づくり
② 史跡・文化財の保全と次世代への継承に向けた取組の推進	史跡・文化財の保護保全に取り組む地域団体との連携協力の促進
	学校支援や各種イベント事業を通じた子どもたちへの地域学習の推進
	ため池の持つ多様な機能の検証と継承に向けた取組の推進
③ 緑農ゾーンの整備促進	ため池等のかがい施設の整備促進と遊休農地の再生等による農業基盤の確保
	松茸山をはじめとする松林保全に向けた松くい虫対策事業の推進
	水源涵養、森林レクリエーションなどに対応する森林整備の推進
	里山・水辺等の環境保全に係る活動の推進
④ 大学・研究施設等との連携促進	大学・研究施設・企業との交流を通じた多様な分野における連携の強化
	産・学・官・民の連携に係る地域情報の積極的発信による若年層の定住促進
⑤ 計画的な土地利用の推進	都市的発展を促す区域と農業的に利用する区域を区分した秩序ある土地利用調整の推進
	都市的発展を促す区域における住民の暮らしの利便性と地域の景観に配慮した土地利用の推進
⑥ 健康で文化的な生活の実現に向けた活動の推進	公民館を中心とした生涯学習活動の充実に向けた環境整備の推進
	総合型スポーツクラブ等との連携を通じたスポーツによる健康づくりの推進
	子育て支援、青少年育成に向けた地域の体制づくりと環境整備の推進
⑦ 安心・安全で快適な生活環境の整備促進	都市環状道路を含めた幹線道路網整備と既設道路における歩道整備の計画的推進
	上田電鉄別所線の存続のための活動を含めた公共交通の利用促進
	地域における防災・防犯・福祉ネットワーク等の体制づくりを通じたコミュニティの再生と充実

川西地域

地域の特性

1	里山に囲まれ、室賀川、浦野川の流域に広がる、のどかで自然豊かな田園地域
2	子どもから高齢者まで、お互いを大切にする意識が浸透
3	東山道に由来する古刹や史跡が多く点在
4	豊かな湯量を誇る天然温泉の室賀温泉ささらの湯があり、多くの方が利用
5	人口は微減傾向で少子高齢化が進行

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	森林や河川、田園に囲まれた美しい風景や自然環境を守り、伝統文化行事を後世に伝えます。
2	自然と人の調和がとれた環境を整え、子どもから高齢者まで、お互いに支えながら住みやすい環境づくりを進めます。
3	史跡などの地域資源の有効活用を進めます。
4	室賀温泉ささらの湯の有効活用を進めます。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 地域自治センターを拠点とした地域づくりの推進	地域自治センターを拠点とした地域づくりや生涯学習の推進
	地域の身近なまちづくりを住民が主体的に進める住民自治の取組の推進
② 住む人にやさしく災害に強いまちづくりの推進	住み慣れた地域で安心して生活できる保健・福祉サービスの充実
	子どもや高齢者など交通弱者の移動手段確保について検討
	自然災害などによる被害防止策の検討
	日頃から地域内自主防災組織を通じた防災意識を高める活動の実施
③ 農業を主体とした産業の振興	鳥獣被害防止策の検討
	耕作放棄地について、新たな農業の担い手確保や作物の転換による活用を検討
④ 地域ぐるみでの子育て支援の推進	公民館、自治会、小中学校、保護者会などの関係団体や地域住民の参画による子どもたちの健全育成の推進
	安心して子育てができる環境の整備
⑤ 交流・体験を中心に据えた地域興しの展開	地域で活動する諸団体と連携を図りながら、自然豊かな環境を生かした都市部の子どもたちとの交流事業を推進
	都会からの移住を目指した事業の検討
	各種団体と連携した山林の保護育成
	親水公園など水辺環境の維持と整備
	室賀温泉ささらの湯施設の有効活用を検討

丸子地域

地域の特性

1	依田川を中心に、水と緑の豊かな自然環境に恵まれた地域
2	国道152号や254号が通る交通の要衝
3	高い技術力を持つ製造業の集積地
4	丸子温泉郷や信州国際音楽村などの観光地が点在
5	地域の中心部には都市機能が集積し、沿道型市街地を形成

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	自然環境や美しい景観を保全しながら依田川、内村川周辺に親水空間を創出し、地域資源の有効活用を進めます。
2	職住近接のゆとりある生活空間創出や健康都市の実現を目指すと共に、日常生活や観光・流通のための道路整備を進めます。
3	丸子温泉郷や信州国際音楽村などの観光・文化資源を効果的に連携させながら、地域内外の交流を促進します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 参加と協働による住民自治の推進	進取の郷土としての精神を受け継ぎながら社会情勢の変化に対応し、地域の知恵と情熱そして未来へ向けた行動力を結集し、新たなまちづくりの仕組みを構築 少子高齢化に的確に対応するため、複数の地域連携や住民活動の効率化等を検討し、安全・安心で満足度の高い地域づくりを推進 お互いを知る面識社会において、人の和と絆を大切に、世代間交流やふれあいの機会を創出しながら地域を愛する心を育み、みんなが住み続けたいと思える豊かな地域づくりを促進
② 自然環境の保全と人々が共生できる地域づくり	豊かな自然環境に感謝する気持ちを広げながら、多様な機能を持つ河川や森林、里山の積極的な整備を継続 依田川内村川合流点等を健康づくり事業の拠点に位置づけ、健康都市実現に向けた各種の事業を推進 若い力が地域に活力を与えるパートナーシップ事業を広く展開し、地域の知恵を次代へ継承しながら、交流と連携の輪を広げ、誇りの持てる地域づくりを推進 歴史的資産の有効活用を検討し、誇りの持てるまちづくりを推進
③ 軽快な交通ネットワークの整備	事業化が始まっている国道254号バイパスをさらに推進するとともに、国道152号丸子バイパスの早期事業化を国や県に働きかけ、「上田地域サンマル交通圏構想」を促進 幹線道路に接続する生活道路の交通環境の整備を進め、循環・交流を促進し生活環境の向上と安全で安心して暮らせるまちづくりを推進 住民の身近な公共交通である路線バス・循環バスを存続していくために、「乗って残す」を基本に公共交通の活性化を促進
④ 連携による次世代産業の創出と創業・雇用の促進	地域の技術力を活かした新産業の創出や研究開発型企業への支援を推進し、創業の増加や新たな雇用の拡大により、職住近接のゆとりある地域づくりを促進 様々な企業や団体、大学等の協働や産学官連携の交流促進などにより、製造業の潜在力を引き出すと共に高度化を図り、持続的成長を促進 事業承継や地域内受注発注体制の拡大を支援し、産業競争力を強化
⑤ 地域資源を生かした新たな観光や産業の創出	国民保養温泉地としての丸子温泉郷の特徴を活かし、各種の地域資源を農・商・工・観・医・学と連携させることで、魅力ある観光地づくりを推進 地域のニーズに合った活気のあるまちづくりに向け、中心市街地の実情を把握しながら産学官及び異業種間の連携を推進し、地域資源の掘り起しや有効活用策の検討を促進 遊休荒廃農地解消の取り組みを進めるとともに、マリコ・ヴィンヤードをはじめとする加工用ブドウの圃場拡大や、地元産農産物を使った付加価値の高い商品の創出と販売戦略などの支援を推進 農商工等の異業種間連携を強化しながら6次産業化に取り組み、併せて地域内外のニーズの把握や需要喚起に取り組むことで、地域資源の有効活用や地域全体の産業発展を促進
⑥ 健康都市の実現	子育てサロンや子育て支援センターの充実を図ると共に、近隣施設との交流やボランティアによる支援協力を継続し、地域ぐるみの子育て支援を推進 次代を担う子どもたちを安心して産み、育てられる環境整備を進めながら、介護予防事業やウォーキングを中心とした健康づくりを推進 災害時の避難困難者を守るため住民支え合いマップの取り組みを推進し、併せて障害者就労施設からの物品購入の促進を図り、高齢者や障害者が生きがいを持ちながら安心して暮らせる地域づくりを推進
⑦ 生涯学習拠点の有効活用	信州上田丸子夏期大学や信州ルネッサンス等の各種事業において、地域内施設を効果的に活用し生涯学習への参加者増加を促進 文化活動団体の育成や交流を推進しながら、サントミュージアムや文化会館、音楽村などの相互連携を強化し、施設の有効活用に併せて利用者の満足度向上を促進 音楽村は音楽や生涯学習に関する設備が充実しているだけでなく、公園からの見事な景観や豊かな自然環境に恵まれた場所であることから、文化と賑わいの地域拠点としての有効活用と整備を推進

真田地域

地域の特性

1	真田氏発祥の郷として歴史に培われた数多くの歴史・文化資源が点在
2	上信越高原国立公園に位置する菅平高原をはじめとする雄大な自然環境
3	四季を通じ、若者から高齢者まで幅広い世代を惹きつける菅平高原スポーツリゾート
4	自治センター周辺に公益・公共施設が集積し、地域南部は宅地化が進行
5	福祉施設が数多く点在し、地域で支え合う福祉活動が盛ん
6	自然環境の特性を生かした農産物の生産、地域営農集落組織による多様な取り組み

発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	地域の豊かな自然環境を活用しながら大切に保全し、後世に伝えます。
2	自然、歴史・文化、スポーツリゾート、農業などの地域資源の連携推進により、地域産業の活性化と交流促進のまちを目指します。
3	市街地近郊の魅力ある居住空間を形成するとともに、地域内外を連絡する道路交通環境の充実を図り、多世代が健康で快適に安心して暮らせるまちを目指します。
4	住民一人ひとりが自主的に学び、考え、行動するまちを目指します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① 全員参加の地域づくりの推進	地域の身近なまちづくりを地域で主体的に進めるための新たな住民自治の仕組みづくりの構築 「地域づくり委員会」を継続発展させ、協働による住みやすく潤いあるふるさとづくりを推進 愛郷心の醸成と地域資源を生かした交流人口の拡大、定住促進への取り組み
② 魅力ある農業の成長産業化への推進	環境と調和した農業生産基盤整備及びマーケットインの視点や異業種連携等による付加価値の高い農産物の創出など収益性の高い農業経営の推進 農地の遊休化抑止に向け、有害鳥獣対策及び多様な担い手の育成、確保により農地の有効利用を促進し、地域農業の競争力強化と持続可能な農業を目指す 観光産業との連携による農業体験や、地域で育む農村文化の伝承及び食農教育など次代につながる農業を推進
③ 地域資源を生かした観光振興	住民自らおもてなしの心を育む研修や実践活動を通じ、地域農業と連携した観光のまちづくりと総合的な情報発信 菅平高原・四阿高原の麓に広がる山岳等の自然を活かした自然体験等を推進し、サニアパークを活用した各種スポーツ宿泊、学習旅行等の受入を中心とする季節の切れ目のないインバウンドを含めた観光振興 ラグビーワールドカップキャンプ地、東京オリンピック・パラリンピックの事前宿泊地誘致を目指し、菅平の優位性を生かした態勢整備の推進 真田氏発祥の郷の歴史や自然を背景に、地域の生活・文化などに触れる参加・体験型観光の推進等産学官民連携による観光地づくり
④ 地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備	上信自動車道整備促進や国道144号及び406号などの広域幹線道路や地域の主要幹線道路の交差点改良並び歩道の整備 地域住民の生活道路の安全確保や観光、農業振興を図るための道路整備 将来にわたり公共交通機関を存続していくための取り組み
⑤ 安心して暮らせる地域づくり	住み慣れた地域で安心して生活ができる医療・介護の連携充実と地域・保健・医療が連携した健康づくり 安心して子どもが育ち、育てることができる環境の整備と地域みんなで支え合う福祉のまちづくり 災害等緊急時の情報収集方法・伝達手段・地域ネットワークの充実 消防団と自主防災組織が連携した自らの地域は自ら守る自主防災体制の確立
⑥ 地域に根ざした生涯学習と生涯スポーツの促進	健康で豊かな生活と地域コミュニティの活性化に向け、地域の歴史、文化、自然を活用した住民誰もが学べる生涯学習環境づくりと誰もが生涯にわたりスポーツに親しめる環境の整備

■ 地域の特徴

1	美ヶ原高原の雄大な自然と心安らぐ田園風景
2	医療・保健・福祉・介護が一体となった潤いと温かみのある地域
3	安全な農畜産物と営農組織や担い手農家などの活力ある農業
4	美ヶ原高原、余里の一里花桃、唐沢小原の福寿草、巣栗渓谷、番所ヶ原スキー場、温泉など多彩な観光資源
5	御柱祭とお練り、火渡り刃渡りの一心様など伝統文化の里
6	カジカの棲む武石の清流、松茸の宝庫の山々など自然の恵みを育む環境

■ 発展の方向性 〈まちづくりの基本的方向性〉

1	美ヶ原高原と、そこに連なる山々の大自然や心安らぐ田園風景を大切に守り育てていきます。また、恵まれた環境の中で、地域全体が子どもを守り育てる地域づくりを目指します。
2	自然を生かした交流施設や農林業などの産業を都市や地域内外との交流・体験の場の創出に活用します。また地域間の交通が確保され、安心して快適に暮らせる地域を目指します。
3	余里の一里花桃、福寿草群生地をはじめとした地域住民の連携と自主的な活動が、環境保全や農林業・観光業の活性化を支える地域を目指します。

〈取組の方向性〉

取組の内容	視点・要素
① まちづくり活動拠点施設の整備と住民自治の推進	活力ある地域づくりにつながるコミュニティ活動の拠点と自治センター機能、防災拠点機能を備えた武石地域総合センターの整備
	地域の個性や特性が生かされた地域内分権を推進する新たな住民自治組織の構築
	自治会、各地域づくり団体が実施する、わがまち魅力アップ応援事業と武石地域全域公園化構想の推進
② 安心して快適に暮らせる地域づくりの推進	災害等緊急時の情報伝達手段としての放送システムの整備
	消防団と自主防災組織が連携した「自分たちの地域は自分たちで守る」自主防災体制の確立
	デマンド交通の維持及び活用の促進と、利用者しやすい効率的な運行形態の充実
③ 地域をつなぐ道路交通環境の整備	武石地域と市中心部を結ぶ国道152号および市道の安全で安心な道路整備の推進
	生活道路や観光ルートの防災対策を推し進め、災害に強い道路網の整備
	住民の生活道路である主要地方道美ヶ原公園沖線の計画的な整備の推進
④ 活力ある農林業の推進と商工業の振興	農業経営体への支援・育成と地域全体で農業経営を支えるシステムの構築及び計画的な農業施設の整備
	優良農用地の利用促進と遊休荒廃農地の解消
	農商工連携や6次産業化の取組による特産品等の開発支援
⑤ 多彩な地域資源を活かした観光の振興	多彩な観光資源の有効活用と整備を進め、効果的な観光宣伝と誘客活動による交流人口の拡大
	友好都市である練馬区との連携によるイベントや農業体験を通じた都市農村交流の拡大
	松本市・長和町など関係団体と連携し、イベント等の開催により美ヶ原高原の魅力を全国に向け発信
⑥ 地域に根ざした医療・保健・福祉・介護の充実	医療、保健、福祉、介護など関係機関や団体との連携による、潤いと温かみのある地域づくり
	武石診療所や依田窪病院などによる地域医療体制の充実
⑦ 地域の特徴を生かした教育の推進とスポーツの振興	公民館や教育委員会並びに多様な組織・団体との連携による学校支援・子育て支援の充実
	地域の課題や歴史など生涯にわたる学習機運の醸成と、スポーツの振興、健康・体力づくり活動の充実
	きめ細かな教育環境の整備

第5部

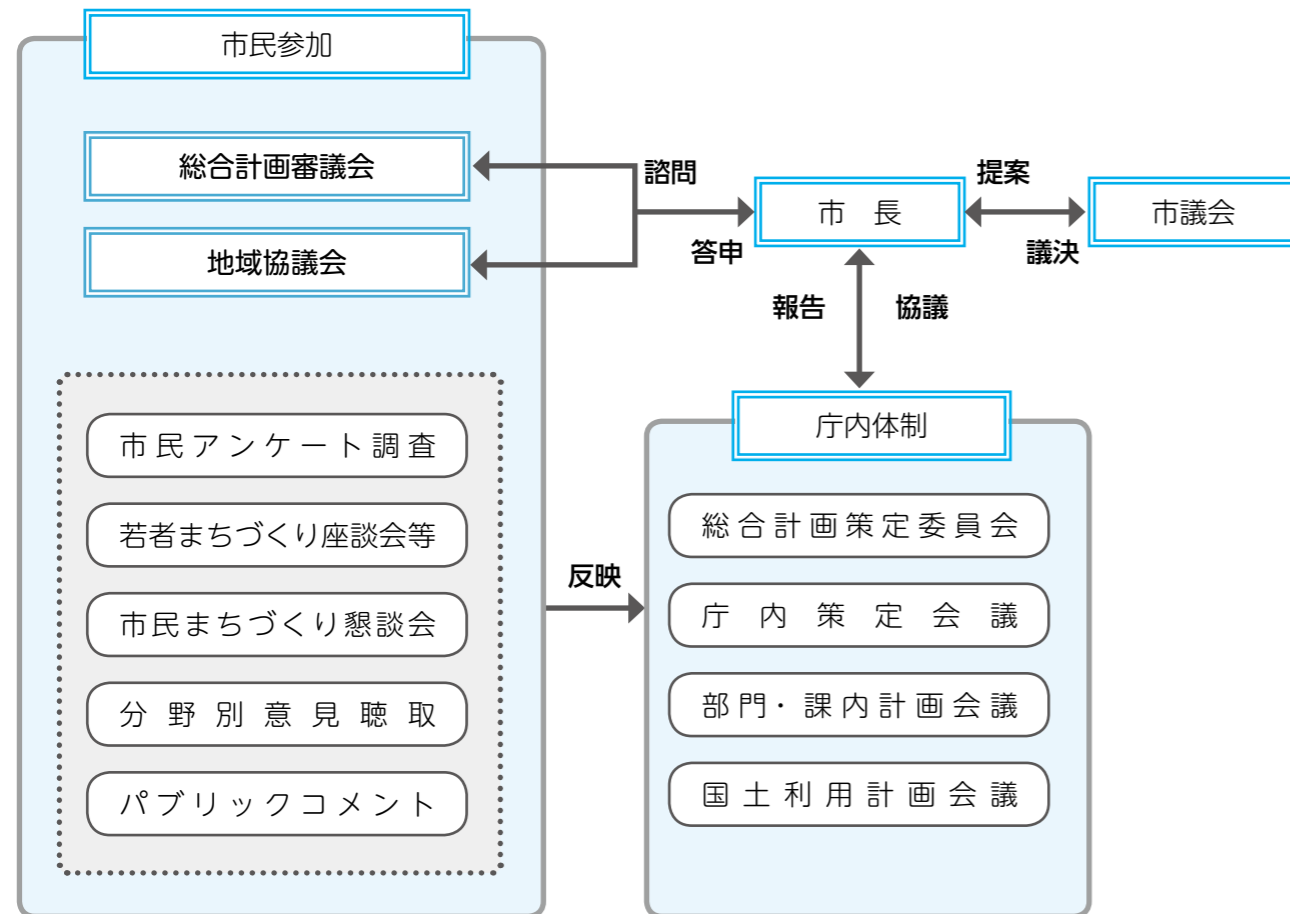
附属資料

策定経過

用語解説

策定経過

1 計画の策定体制



平成27年8月5日、上田市総合計画審議会(増澤会長)から市長に答申



総合計画審議会全体会の様子

2 上田市総合計画審議会

構成

全体会	60人		
部会 (6部会)	行財政 (9人)	市民生活・環境 (12人)	産業経済 (11人)
	福祉健康 (12人)	教育文化 (10人)	国土利用 (6人)

審議内容

年	月	全体会	部会
26	9	第1回 ・諮問 ・策定方針 ・審議会運営方針、スケジュール ・全体構成案	第1回 ・各部会の検討範囲
	11	第2回 ・若者まちづくり座談会結果報告 ・市民アンケート調査結果報告 ・基礎調査・分析 ・まちづくりビジョン(素案)	第2回 ・まちづくりビジョン(素案)
	12		第3回 ・分野別意見聴取 ・第一次総合計画検証
27	1	第3回 ・まちづくりビジョン(案)	第4回 ・分野別意見聴取 ・第一次総合計画検証 ・まちづくり計画(素案)
	2	第4回 ・まちづくりビジョン(案) ・まちづくり計画骨子(案) ・重点プロジェクト項目(案) ・第1回中間答申(案)	第5回 ・まちづくり計画(素案)
	第1回中間答申「まちづくりビジョン(案)まちづくり計画骨子(案)」		
	3 ~ 5		第6 ~ 9回 ・市民まちづくり懇談会結果報告 ・パブリックコメント結果報告 ・まちづくり計画(案)
	6	第5回 ・まちづくり計画(案) ・まちづくりビジョン(案) ・重点プロジェクト(案) ・第2回中間答申(案)	■第1回 正副会長・正副部会長会 ・「地域の特性と発展の方向性」 ・人口推計、目標人口(案)
	第2回中間答申「まちづくり計画(案)」		
7		■第2回 正副会長・正副部会長会 ・総合計画全体構成(案) ・重点プロジェクト(案) ■第3回 正副会長・正副部会長会 ・パブリックコメント結果報告 ・重点プロジェクト(案)、まちづくり計画(案) ・目標人口(案) ・最終答申(案)	
8	第6回 ・最終答申(案)	最終答申「第二次上田市総合計画(案)」	

3 総合計画策定における市民参加等の状況

パブリックコメント (1回目)	◆募集時期 ・平成26年7月1日～8月31日まで(広報、ホームページ) ◆内容 ・上田市のまちづくりや将来都市像などに対する思いや考え
市民アンケート調査	◆調査期間 ・平成26年8月21日～平成26年9月8日(郵送による配布・回収) ◆調査対象 ・市民18歳以上の方から無作為に抽出した5,000人(回収率39.7%) ◆内容 ・上田市の住みやすさ、施策の満足度、公共施設のあり方等
若者まちづくり座談会	◆開催時期 ・平成26年8月～10月(ワークショップ4回) ◆内容 ・20～30代の若者によるまちづくりへの提言
分野別意見聴取	◆開催時期 ・平成26年12月～27年1月(17団体) ◆内容 ・各部会場で各種団体・サークル等の方から意見を聴取
パブリックコメント (2回目)	◆募集期間 ・平成27年3月16日～4月3日(広報、ホームページ等) ◆内容 ・まちづくりビジョン(案)に対する意見
市民まちづくり懇談会	◆開催時期 ・平成27年3月(市内5会場) ◆内容 ・まちづくりビジョン(案)に対する意見
パブリックコメント (3回目)	◆募集期間 ・平成27年7月1日～21日(広報、ホームページ等) ◆内容 ・まちづくり計画(案)に対する意見



若者まちづくり座談会の様子



市民まちづくり懇談会の様子

4 上田市総合計画審議会委員会名簿

(敬称略、順不同、所属等名称は就任当時のもの)

上田市総合計画審議会 全体会

会 長 増澤 延男 (一財)上田市体育協会副会長
副会長 宮本 智夫 上田市自治会連合会会長

上田市総合計画審議会 部会

(◎:部会長、○:副部会長)

行財政部会

◎小林 哲哉 上田信用金庫理事長
○斎藤 重一郎 上田市地域協議会正副会長会長
大井 定雄 前市民による事業評価市民評価委員
小駒 はるみ 上田市地域情報化推進委員会委員
金井 律子 上田人権擁護委員協議会常任委員
宮入 美智子 上田市民行財政改革推進委員会委員
宮本 智夫 上田市自治会連合会会長
村松 正孝 上田市多文化共生推進協会副会長
山浦 美幸 上田市民行財政改革推進委員会委員

市民生活・環境部会

◎竹田 貴一 うえだ環境市民会議議長
○近藤 利男 上田市自治会連合会副会長 (平成27年3月まで)
○廣川 祐助 上田市自治会連合会副会長 (平成27年4月から)
小林 典子 長野県建築士会上小支部参与
関川 久子 上田市ごみ減量アドバイザーリーダー
田中 利喜夫 上田市上下水道審議会副会長
中西 満義 上田女子短期大学総合文化学科教授
成澤 啓輔 依田川リバーフロント市民協働事業実行委員会委員長
藤川 まゆみ NPO法人上田市民エネルギー代表
宮入 一枝 上小防犯協会防犯女性部部長
宮下 勝久 上田市防災支援協会相談役
矢島 昭徳 上田市消防団団長
山口 春香 前上田市環境審議会委員

用語解説

産業経済部会

◎畠中 俊哉	上田商業21世紀会会長
○石合 茂	信州うえだ農業協同組合営農部長
久保 美奈子	上田商工会議所女性会会長
久保田 茂登	長野県旅館ホテル組合会会長
熊谷 圭介	長野大学環境ツーリズム学部准教授
児玉 光史	(株)地元カンパニー代表取締役
小林 雅夫	小林建築設計事務所代表
原 有紀	UMFグループうえだNavi副編集長
堀内 育子	上田市農業委員会委員
宮坂 文子	上田地産地消推進会議副会長
柳沢 裕子	武石地域協議会委員

福祉健康部会

◎増田 宗彦	上田市民生委員・児童委員協議会会長
○中村 紀子	上田市介護保険指定居宅介護支援事業者連絡協議会主任
五十嵐 紗織	上田女子短期大学幼児教育学科非常勤講師
小沼 紘代	上田市身体障害者福祉協会副理事長
倉沢 和成	上田市医師会(公衆衛生担当)理事
小林 史夫	自治会連合会副会長(平成27年3月まで)
両角 新三郎	自治会連合会副会長(平成27年4月から)
佐藤 礼子	上田市健康推進委員連合会会長(平成27年3月まで)
太田 和子	上田市健康推進委員連合会副会長(平成27年4月から)
寺尾 雄二郎	シナノケンシ(株)
丸山 正明	(社福)上田市社会福祉協議会会長
丸山 康雄	丸子ボランティア連絡協議会会長
村岡 裕	(社福)依田窪福祉会常務理事
安田 美津子	元家庭児童相談員

教育文化部会

◎佐藤 和雄	真田町文化協会会長
○小田中 美果	国際ソロプチミスト上田前会長
市川 久子	上田市文化芸術協会会長
小林 慎一	上田市校長会会長
竹花 のり子	上田市社会教育委員
田村 重俊	自治会連合会副会長(平成27年3月まで)
久保田 和英	自治会連合会副会長(平成27年4月から)
早坂 淳	長野大学社会福祉学部准教授
増澤 延男	(一財)上田市体育協会副会長
松本 千恵子	前指導主事
丸山 進	菅平高原観光協会会長

国土利用部会

◎清水 茂	信州大学工学部教授
○加々美 貴代	NPO法人やまぼうし自然学校代表理事
北澤 美恵子	武石地域協議会委員
清水 幸子	上田市農業委員会女性部長
中山 茂	前長野県佐久建設事務所長
宮島 芳保	長野県上田建設事務所整備課長

数字・アルファベット

6次産業化 ……………	第一次産業である農林水産物の生産だけでなく、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第二次産業や第三次産業にまで一体的に行う事業活動(1次×2次×3次=6次)
ALT ……………	外国語授業において、日本人教員の助手としてチームを組み、授業を行う外国人教員
AREC・Fiiプラザ ……………	上田市産学官連携支援施設の管理運営者である(一財)浅間リサーチエクステンションセンターが行う産学・産産連携の促進を図る有料制会員組織。講演会、研究会、技術研修会・セミナー及び情報提供を実施している。
BCP ……………	大規模災害において施設が被災した場合、優先的に行う業務を定め、限られた職員や資器材で早期に復旧を図るための業務継続計画
BOD ……………	川などから採水した有機物が好気性微生物により分解される過程で消費される水中の酸素量のこと。河川における有機物による水質汚濁の指標
ICT(情報通信技術) ……………	Information and Communication Technology(インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー)の略。情報や通信に関する技術の総称
ICTツール ……………	情報処理又は情報通信を行うための機器や仕組みのこと。ここでは、インターネットを利用したコミュニケーション手段のこと。
ICTタグ化 ……………	図書のデータが書き込まれた超小型のICチップを本に貼り、データを機械が読み取ること、複数貸出・複数返却の自動処理や図書の管理などの効率化を図られる。
JETRO ……………	日本貿易振興機構。Japan External Trade Organizationの略。貿易・投資促進と開発途上国研究を通じ、日本企業の海外展開支援、外国企業の日本への誘致などを行う独立行政法人
U・I・Jターン ……………	都市部の居住者が地方へ移住する人口還流現象の総称。Uターンは都市部への移住者が生まれ育った地域へ再び移住すること、Iターンは都市部の居住者が地方へ移住すること、Jターンは都市部への移住者が出身地の近隣地域へ再び移住することを示す。

あ行

アクセシビリティ ……………	年齢や障がいの有無にかかわらず、誰でも必要とする情報や施設などに簡単にたどり着け、利用できること。
アセットマネジメント ……………	中長期的な財政収支に基づく計画的な施設の整備・更新
新しい公共 ……………	人々の生活を支える役割を「行政」のみならず、まちづくり、防犯や防災、子育てや教育、福祉などに、「市民」一人ひとりが参加し、社会全体で支え合おうとする仕組み、体制、活動のこと。
イベント実行委員会 ……………	信州上田まつり実行委員会、上田わっしょい実行委員会、丸子ドドンコ実行委員会、真田まつり実行委員会、武石夏まつり実行委員会など全市民的なまつりや各地域のまつりのほかため池や棚田など各地域の資源を生かしたイベントなどで多くの実行委員会がある。
インクルーシブ教育 ……………	障がいの有無によらず、誰もが地域の学校で学べる教育のこと。
上田市産学官連携支援施設(AREC) ……………	信州大学の研究者と企業との共同研究開発を通じて、地域に新しい技術や産業を生み出すことを目的とした施設
上田市体育協会 ……………	加盟競技団体の取りまとめや、市との協働でのスポーツ大会の開催、スポーツ少年団の活動支援など市民の体力向上とスポーツ精神の高揚

を図る活動を行う。また、日本体育協会及び長野県体育協会の下部組織としての活動を行う団体

上田地域30分(サンマル)交通圏

上田市、東御市、長和町、坂城町、青木村の中心部から、上信越自動車道の最寄りのインターチェンジや上田駅へ、おおむね30分以内で結ばれるよう道路網を整備する構想

美味(おい)だれやきとり

すり下ろしにんにくなどが入った醤油ベースのたれをかけた焼き鳥で、たれの味は店によって独特である。「美味だれ焼き鳥」と「美味だれ」は上田市の登録商標となっている。

オープンデータ

施設情報、防災情報、統計情報など、行政が保有するさまざまなデータ(個人情報など公開できないデータを除く)を編集や加工などの二次利用可能な利用しやすい形式で公開する取組のこと。

か行

カウンセリングマインド研修

相手の話に共感し、課題・問題を共有化できるカウンセリング能力の習得を目的とする研修

基幹的農業従事者

農業に主として従事していた世帯員のうち、1年間のふだんの主な状態が仕事に従事していた者

企業メセナ

メセナ(mécénat)とは、企業が主として資金を提供して文化、芸術活動を支援すること。ただし、企業による資金以外の経営資源(人材・施設など)による支援も少なからず行われている。また、企業による事業主催なども含まれる。代表的なものに財団などを通じた資金的バックアップや、企業が主催するコンサートやオペラの公演、スポーツ等各種イベントの開催などがある。

キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を促す教育のこと。

教育再生首長会議

国が進める教育改革のもと、「教育再生こそ地域の再生、日本再生の根本」という認識を同じくする全国の首長による会議で、当市は平成27

年4月に加入

教育ファーム

自然の恩恵や食に関わる人々のさまざまな活動への理解を深めることなどを目的として、生産者の指導を受けながら一連の農作業などの体験の機会を提供する取組

拠点集約型都市

都市機能の集約を促進する拠点として複数を位置付け、それぞれを公共交通などのネットワークで連携した都市

銀座NAGANO

コアな信州ファンを増やし、信州の魅力をまるごと共有(シェア)するために長野県が平成26年度に銀座に開設したスペース

近代化産業遺産

全国各地の産業近代化の過程を物語る建築物、機械、文書などの歴史的価値を顕在化させ、地域の活性化に役立てることを目的として、平成19年度、20年度に経済産業省が公表した。上田市では製糸関連遺産として信州大学繊維学部講堂、上田蚕種(株)の事務棟、笠原工業(株)の倉庫、繭倉など。

クラインガルテン

滞在型(宿泊施設)の市民農園

グリーンベルト

歩道が整備されていない通学路などにおいて、視覚的に歩行空間を明確にするため路肩部分を緑色にすること。

下水道普及率

下水道整備計画対象区域内における人口と整備済み人口の比率

心の教室相談員

県で配置している「心の相談員」が配置されていない学校を対象に、上田市単独で「心の教室相談員」を配置している。

コミュニティ・スクール

保護者や地域の皆さんの声を学校運営に直接反映させ、保護者・地域・学校・教育委員会が一体となってより良い学校を作り上げていくことを目指すもの

コワーキングスペース

独立して働く者同士が集まり、共有するオフィススペース。働く人がネットワークを使い、アイデアの創出など、相乗効果のあるコミュニティー・スペース

さ行

真田街道推進機構

上田市、長野市、沼田市等真田氏関連の長野県、群馬県の計13自治体で構成

自給的農家

経営耕地面積が30a未満かつ農産物販売金額が50万円未満の農家

実質公債費比率

公営企業会計(上水道事業、下水道事業など)の公債費に充当した繰出金や、広域連合や一部事務組合の公債費に係る負担金などを加えた実質的な公債費が標準的な財政規模(標準財政規模=標準的な年間の収入)に占める割合を示したものの

市内主要27河川(BOD環境基準値)

環境基準	河川名
2mg/l以下	神川、浦野川、産川、千曲川、依田川、矢出沢川、傍陽川、内村川、武石川
3mg/l以下	蛭沢川、室賀川、湯川、瀬沢川、常田川、塩川沢川、洗馬川、沼入沢、角間川、渋沢川、大明神沢、大洞川、大沢川、小沢根川、余里川、権兵衛川、横沢川、茂沢川

※「上田市公害防止条例施行規則」及び環境庁(環境省)告示「生活環境の保全に関する環境基準」の類型に基づく。

し尿前処理下水道放流[投入]施設

し尿等から異物を取り除き下水道処理に適した水質に希釈した後、下水道へ放流[投入]する施設。下水道の整備が進んだ地域では、し尿の発生量が減少するため下水道施設の効率的な運用面からも採用する自治体が増えている。

ジビエ

シカをはじめとする野生鳥獣の肉

社会教育

学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動(体育及びレクリエーションの活動を含む。)

周産期

妊娠22週から出生後7日未満のことをいう。この時期は、合併症妊娠や分娩時の新生児仮死など、母体・胎児や新生児の生命に関わる事態が発生する可能性があることから、産科・小児科双方から母体・胎児や新生児を総合的に管理して母と子の健康を守る必要がある。

小1プロブレム

小学校に入学したばかりの1年生の学級において「集団行動がとれない」「授業中に座ってられない」「教員の話を受けない」などの状態が継続し、学級が機能しなくなる状態

生涯学習

住民一人ひとりが生涯にわたって自主的、自発的に行うことを基本にした学習活動で、個人の自己学習や学校教育・社会教育を含めた多様な学習活動

生涯学習団体

生涯学習活動を行うために、自主的に組織し運営を行う団体

上下水道圏地域医療再生計画

上下水道圏の医療課題の解決を図り、5年後、10年後の地域医療のあるべき姿を示したものの。救急医療体制の確立、周産期医療体制の確立、医師などの安定的な確保体制の構築及び地域医療連携の確立を施策の柱に信州上田医療センター、信州大学医学部、医師会、県、地域の市町村などの関係機関が取り組む。

上水道有収率

給水する水量と料金として収入のあった水量との比率

小中学校30人規模学級編制

きめ細やかな指導をするため、40人の学級編制基準を35人とし、概ね30人程度の学級編制とすること。

少人数学習集団編成

習熟度に差がつかやすい教科において、30人以下の集団で授業を行うこと。

消防団サポート事業

消防団員とその家族が店舗(飲食店など)や公共施設(温泉やプールなど)等を利用する際、料金割引などのサービスを受けることができる団員を応援する事業

将来負担比率

一般会計などが将来負担すべき実質的な負債(公営企業会計や広域連合や一部事務組合及び第三セクターなどの分も含む。)の、標準財政規模に対する比率であり、これらの負債が将来財政運営を圧迫する可能性が高いかどうかを示すストック指標(資産指標)

自立相談支援事業

生活困窮者からの相談を受け、就労その他自立

に関する相談支援、事業利用のための支援プラン作成などを行い、ハローワークなど関係機関と連携し包括的に継続的な自立支援を実施するもの

水素社会

水素を主要なエネルギー源として日常生活や産業活動に利活用する社会

スクールカウンセラー

児童・生徒の生活上の問題や悩みの相談に応じるほか、教職員や保護者に対しても助言・指導のできる専門家

スクールソーシャルワーカー

いじめ、暴力行為、児童虐待などの課題解決のため、教育分野のほか社会福祉分野の知識・技術を用い関係機関との連絡調整を行う専門家

スマートウェルネスシティ構想

歩くことを通じて健康をつくり、食事、運動、教育、交通、住環境などと一体的な総合政策を推進し、住民が健康で元気に暮らせる新しい都市モデルの実現を目指すもの。

総合型地域スポーツクラブ

身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいスポーツクラブで、子どもから高齢者まで(多世代)、さまざまなスポーツを愛好する人々が(多目的)、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる(多志向)という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されているスポーツクラブ

ソーシャルスキルトレーニング

発達障がいなどによって人と上手に関わるのが苦手な人に、相手に不快感なく受け入れてもらうための技術を身につけるためのトレーニング

た行

大学発ベンチャー

大学教員、研究者、学生が開発した技術や研究成果を用いて事業化する企業のこと。教員などが自ら事業化するもの、技術などを特許化して企業が事業化するもの、大学と企業の共同研究の成果を企業が事業化するもの、教員などが企業に対して技術指導を行い事業化するものなどがある。

体組成

体を構成する組織(脂肪、筋肉、骨、水分など)の体重に対する割合をいう。

地域経営会議

地域内分権第4ステージの推進過程において、地域協議会の設置範囲を単位として住民と市が一堂に会し、地域の課題解決や今後の住民自治のあり方(団体間の連携や組織づくり等)などについて話し合う任意の組織の総称。具体的な組織名称は、地域において決定

中1ギャップ

小学生から中学1年生に進学したときに、学習や生活の変化になじめずに不登校となったり、いじめが急増するという現象

低炭素社会

社会に影響をもたらす地球温暖化の原因である温室効果ガスのうち、大きな割合を占める二酸化炭素の排出が少ない社会

統合型GIS(地図情報システム)

道路、街区、建物、河川などの地図情報を統合・電子化し、一元的に管理運用するシステム。位置情報を可視化しデータの共有化を図ることで、高度な分析や迅速な判断が可能となる。

特定健康診査

高齢者の医療の確保に関する法律により保険者に義務付けられた健診で、40歳から74歳までの加入者を対象としたメタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)に着目した健康診査。

特定保健指導

特定健康診査の結果、生活習慣病の発症リスクが高く生活習慣の改善により予防効果が期待できる受診者を対象に行う保健指導。対象者が健康的な生活に自ら改善できるよう、専門家がさまざまな働きかけやアドバイスを行い支援する。

特別支援教育コーディネーター

子どもの障がいに対する教職員の理解を高め、一人ひとりの子どものニーズに応じた教育を実施するために、各校内で中心となって校内研修の企画・運営や教育相談の窓口などの役割を担う人

土曜日の教育活動

平成25年の学校教育法改正で、土曜日は休業日としつつ、教育委員会が必要と認める場合の実施要件が緩和された。学校の授業や地域人材に

よる学習や体験活動を提供し、子どもの成長を支えていくことがねらい

な行

認定農業者

「農業経営基盤強化促進法」に基づく制度で、経営改善を図ろうとする農業者が自ら農業経営改善計画を作成・申請し、市町村の基本構想に照らして適切であり、その計画の達成される見込みが確実で、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために適切であるとの基準に適合する農業者として市町村から認定を受けた者

農工商連携

農山漁村の6次産業化の一つである農工商連携は、地域の特色ある農林水産物、美しい景観などの貴重な資源を有効に活用するため、農林漁業者と商工業者の方々がお互いの「技術」や「ノウハウ」を持ち寄って、新しい商品やサービスの開発・提供、販路の拡大などに取り組むもの

農林業センサス

農林業の生産構造などを明らかにするとともに、農山村の実態を把握し、農林行政の企画などのための資料を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査

は行

バイリンガル

状況に応じて、ふたつの言語を自由に使う能力があること。また、その人

人・農地プラン

5年後、10年後の地域農業の維持・発展を見据えて各地域が抱える「人と農地の問題」の解決を図るため、地域の話し合いにより、「今後の地域の経営体」、「将来の農地利用のあり方」などをまとめたもので、市町村が作成する。

不育

妊娠はするけれども、流産、死産や新生児死亡などを繰り返して結果的に子どもを持っていない場合、不育症と呼びます。

ぶれジョブ活動

障がいのある児童・生徒が、地域での職場体験を通じて社会性や自尊感情を向上させるとともに、地域における障がい者理解を促進し、共生社

会の実現を目指す活動

ま行

マイナンバー制度(社会保障・税番号制度)

複数の機関に存在する個人の情報を同一人の情報であるということの確認を行うための社会基盤(インフラ)であり、「社会保障・税制度の効率性・透明性の確保」と「国民にとって利便性の高い公平・公正な社会の実現」に向けて、国民一人ひとりに固有の番号を割り当てる制度

や行

友愛訪問

高齢者世帯や障がい者世帯など見守りが必要な世帯の皆さんが、住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、安否確認や話し相手など孤独感の解消を図るため近隣の住民ボランティアが訪問すること。

ユニバーサルデザイン

障がいの有無にかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。

ひと笑顔あふれ 輝く未来につながる^{けんこう}健幸都市
第二次上田市総合計画
平成28年3月発行

発行・編集 上田市政策企画部政策企画課
〒386-8601 長野県上田市大手一丁目11番16号
TEL.0268-22-4100(代表) FAX.0268-25-4100
上田市ホームページ
<http://www.city.ueda.nagano.jp>

